



岡山県産業労働部観光課 副参事 ◆ 岡山大学法学部卒・法学研究科修士課程修了

小玉 健

K O D A M A T a k e s h i

岡山県庁に入庁して以来、
主に国際関係の業務に携わってきた。
現在は、外国人観光客誘致を担当。
岡山を海外に売り込もうと奮闘する。

- ▶ こだま たけし (45歳)
- 昭和43年 岡山市生まれ
- 昭和62年 岡山大学法学部入学
- 平成3年 岡山大学大学院法学研究科入学
- 平成6年 岡山県庁入庁
- 平成10年 知事室 公聴広報課
- 平成14年 自治体国際化協会 (CLAIR) 東京本部
- 平成15年 自治体国際化協会 (CLAIR) シドニー事務所
- 平成17年 企画振興部 国際課
- 平成20年 産業労働部 産業企画課 (経済国際化推進班)
- 平成22年 美作県民局 税務部 収税課
- 平成24年 総務部 税務課 (特別徴収班)
- 平成26年 産業労働部 観光課 (海外誘客班)



シドニー事務所時代▶

先導的な取り組みをして、同国の視察を希望する自治体をサポートしたり、岡山県と姉妹提携を結ぶ南オーストラリア州に、関係者が訪れた際にガイドするなどしました。海外での出会いや経験が、今の自分の糧になりました。

先導的な取り組みをして、同国の視察を希望する自治体をサポートしたり、岡山県と姉妹提携を結ぶ南オーストラリア州に、関係者が訪れた際にガイドするなどしました。海外での出会いや経験が、今の自分の糧になりました。

種になった海外勤務
学生時代、法律を学んでいた私が、県庁で「国際畑」を歩むようになったのは、一般財団法人「自治体国際化協会」(CLAIR)への出向が大きなきっかけになったと思います。
同法人は、国内自治体の海外での経済活動支援や、姉妹都市交流の橋渡しなどを行っています。各都道府県のほか、海外に7カ所の拠点を持っています。
本部(東京)での勤務を経て、2003年から2年間、オーストラリアのシドニー事務所にいました。自然豊かなイメージのある同国ですが、実は砂漠が広く、緑があるのは沿岸部に限られています。貴重な自然を後世に残すため、ごみの削減、エコツーリズムなど、環境保全に力を入れています。

郷土の魅力再発見
視察で県に訪れた海外の旅行者、観光担当者らの案内もしているのですが、思いがけない反応が返ってくる場合があります。先日、チュニジアの国家観光局

観光で関心を持つポイントも、各国で異なります。例えば、中国東南アジアの方は、果物狩りが好きなので、桃狩りができることをアピール。欧米の方は歴史的名ものを好む傾向があるので、伝統工芸や祭りを紹介するなど、それぞれに合った売り込みをしています。

「OKAYAMA」を海外に出向以降は、国際課や産業企画課経済国際化推進班など、海外に携わるさまざまな業務をしてきました。4月からは観光課で、外国人観光客の誘致を担当しています。
国内外で開かれる海外の旅行者を対象にした商談会に参加。ブースを設けて、県の魅力をPRするのですが、日本の地方都市の一つである「OKAYAMA」を売り込むのは、たやすいことではありません。ほとんどの外国人観光客がまず訪れたいのは、東京、京都、大阪といった大都市だからです。
観光で関心を持つポイントも、各国で異なります。例えば、中国東南アジアの方は、果物狩りが好きなので、桃狩りができることをアピール。欧米の方は歴史的名ものを好む傾向があるので、伝統工芸や祭りを紹介するなど、それぞれに合った売り込みをしています。



チュニジア国家観光局の担当者に説明する小玉さん▲

の担当者から倉敷・美観地区の感想を聞いたところ、「観光地なのに、落ち着いた雰囲気も保たれている」と驚いていました。他国の観光地は大勢の観光客が集まると、どうしても雑然とした印象になることでした。「海外の目」を通して、郷土の魅力再発見したり、新たな発見ができるのが、この仕事の醍醐味です。
私の役割は「変圧器」になることだと考えています。電圧は日本と海外で基準が異なるため、変圧器がなければ故障してしまいます。それと同じで、海外からのニーズに耳を傾けたり、逆に岡山の売り方を外国人に分かるように伝えるなど、双方を調整するのが、私の仕事です。これからも岡山と海外を円滑につなぐための一助になりたいと思います。

岡山と海外 つなぐ一助に



■岡山県庁
所在地：岡山市北区内山下2丁目4番6号
事業内容：産業、観光、文化など。岡山県の各種施策の企画・許可事務ほか
職員数：24,862人 (平成26年4月1日現在)